



平成 30 年 8 月 14 日

各 位

会 社 名	株式会社クレステック
代表者名	代表取締役社長 高林 彰 (コード：7812 東証 J A S D A Q)
問合せ先	取締役執行役員管理部長 三輪 雅人 (TEL. 053-435-3553)

(連結) 棚卸資産評価損及び(個別) 投資損失引当金繰入額の計上、  
並びに通期連結業績予想値と実績値との差異、個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 6 月期において(連結) 棚卸資産評価損及び(個別) 投資損失引当金繰入額を計上するとともに、平成 30 年 8 月 1 日に公表しました、平成 30 年 6 月期通期連結業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 30 年 6 月期の個別業績と前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせします。

#### 記

##### 1. 棚卸資産評価損(売上原価)の内容

当社は、連結決算において、連結子会社である CRESTEC PHILIPPINES, INC. の社内体制の変更を期に、現地国における事業拡大に伴い管理体制を一層強化すべく、現地監査人の選定を含めて社内管理体制の再構築を行っていた中、現地監査人との協議の結果、前期以前採用していた棚卸資産の評価と比較し、より保守的な評価をすることとなり、棚卸資産評価損 132 百万円を売上原価に計上しました。

なお、当該棚卸資産評価損の計上はありましたが、評価の変更に伴う損失の計上であることから、期末配当金の額に変更はありません。

##### 2. 投資損失引当金繰入額(特別損失)の内容

当社は、個別決算において、連結子会社である CRESTEC USA INC. の株式について投資損失引当金繰入額 55 百万円を計上いたしました。平成 30 年 6 月期におきまして CRESTEC USA INC. の業績は好調に推移しましたが、米国の税制改革に伴い平成 30 年度より法人税率の引き上げが決定したことにより、税効果会計の計算に使用する法定実効税率が引き下がり、繰延税金資産が減少した結果、CRESTEC USA INC. の純資産基準額が引き下がることによって発生したものであります。

なお、当該損失につきましては、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

3. 平成30年6月期通期連結業績予想値と実績値との差異（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 17,295	百万円 918	百万円 847	百万円 395	円 銭 128円80銭
当期実績（B）	17,295	800	755	391	127円60銭
増減額（B－A）	0	△118	△92	△4	
増減率（％）	0.0%	△12.9%	△10.9%	△1.0%	
（参考）前期連結実績 （平成29年6月期）	14,879	691	714	367	121円05銭

（差異の理由について）

CRESTEC PHILIPPINES, INC. において、棚卸資産評価損132百万円を売上原価に計上したことによるものであります。

4. 平成30年6月期通期個別業績と前期実績値との差異（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績（A）	百万円 4,264	百万円 259	百万円 252	百万円 △143	円 銭 △47円17銭
当期実績（B）	4,502	320	264	109	35円81銭
増減額（B－A）	238	60	12	253	
増減率（％）	5.6%	23.4%	4.8%	－	

（差異の理由について）

売上高については、輸送機器メーカーや情報機器メーカーとの取引が引き続き堅調により、前事業年度と比べ増加しております。営業利益の増加につきましても売上高の増加による影響となります。

経常利益については、売上高の増加はありましたが、為替差益が前期実績に比べ減少いたしました。

当期純利益につきましては、前期はCRESTEC PRINTING (DONGGUAN) LTD. の出資金に対する関係会社出資金評価損379百万円を計上したことにより当期純利益が減少しておりますが、当期はCRESTEC USA INC. の株式に対する投資損失引当金繰入額55百万円がありましたが、前期実績を上回る結果となりました。

以 上